

# 「今の苦難はやがての栄光に比べ、取るに足りない」

ローマ8：18

堀田修一 23・7・23

本日のみことばも、キリスト教の中心を構成する大きな特質です。多くの宗教は、「私たちの宗教に入信すると苦しみ、病は去り、この世的な繁栄が与えられると強調し、入信させようとするのに対し、真のキリスト教信仰、聖書は、真正面から苦難と忍耐と将来の確実な希望、救いの完成を確信をもって語ります。その福音の中心に、私たちの罪のための主の十字架の苦難と死への勝利の復活（苦難で終わらない希望の復活）があります。福音とは、この苦難と希望溢れる主イエスに霊的に結び合わされる恵みです。私たちは、素晴らしい主に結ばれているので、神の栄光の御国の共同相続人なのです。聖書の真実なみことばは、主を信じる者は、この世でも神の恵み、愛、喜びを受けると同時に、主のための苦しみも受けると正直に語っています。これは非常に大切な点です。もし私たちが、「主を信じれば、病も苦難もなく、御利益と富の繁栄だけが待っています」と教えられ、主を信じ、その後、病や苦難の試練があるとつまずくでしょう。しかし、私たちが集う教会が聖書的な教会であれば、「主を信じると、この地上で罪の赦し、新しいいのち、永遠のいのち、神の愛、恵み、助けを受けます。と同時に、主の再臨までは、主のための苦しみや主の品性に成長するための神の愛の訓練があります」と教えられていれば、苦難が来ても「ああ、これが聖書が語る苦しみか」と正しく捉え、神により頼み忍耐し、将来、神の救いの完成があるという希望をもって歩めるのです。証し：「困難はあるけれど、神に頼って進みなさい」という助言の価値。

I 「今の時の苦難は」：18。この世、地上では、神の恵みと同時に苦難があることと将来の報いを神は真実に語られる。

1. 「あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけではなく、キリストのために苦しむこともあるのです」ペリピ1：29

2. 「わたし（キリスト）のために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。」マタイ5：11, 12

3. パウロの苦難の体験と主の支え「私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、主なるイエス・キリストを宣べ伝えています。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべなのです。『闇の中から光が輝き出よ』と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光（素晴らしい御性質）を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らして下さったのです。…私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。私たちは、いつもイエスの死（主のための苦しみの死の可能性）を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。…主イエスをよみがえらされた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくだ

さることを知っているからです」Ⅱコリント4：5－14。

Ⅱ「今の時の苦難」は、無意味な苦難ではなく、神の支配、ご計画の中にあり、その苦難により、私たちは、神ご自身と神の恵み、信仰の成長を体験します。

1. 「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰める（寄り添い、辛さに共感する）ことができます。…私（パウロ）たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。実際、私たちは死刑の宣告を受けた思いでした。それは、私たちが自分自身に頼らず、死者をよみがえらせてくださる神に頼る者となるためだったのです。神は、それほど大きな死の危険から私たちを救い出してくださいました。これからも救い出してくださいます。私たちがこの神に希望を置いています」Ⅱコリント1：4－10。 私たちも、辛いとき、いつも神に希望を置きましょう。

2. 「私から（苦痛の病を）去らせてくださるようと、私は三度、主に願いました（神に正直に願いの祈りをして良いのです）。しかし、主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである。』と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときこそ、私は強い（主が十分な恵みと力を下さる）からです」Ⅱコリント12：9，10

Ⅲ「やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないとは私は考えます」：18

1. 私たちは、この地上では、苦難や病の苦しみ、迫害があります。しかし、失望してはいけません。それらは無駄な苦しみではなく、神の栄光、救いの完成、新天新地が生まれる産みの苦しみです。苦しみの終わりではなく、苦しみの後、主の再臨の時に、主を信じる私たちに病や弱さのない栄光のからだを与えられます。今の被造世界、天と地も変えられ、新天新地が神によって新創造されるのです！

2. 「やがて私たちに啓示される栄光」とは？→キリストの再臨の時に実現する栄光、罪と病のある私たちに罪も病もない栄光のからだを与えられる栄光の恵みです。

「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ（地上のからだ）、朽ちないものによみがえらせられ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらせられ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらせられ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらせるのです」

Ⅰコリント15：42－44

「終わりのラッパ（主の再臨）とともに、たちまち、一瞬のうちに（主を信じている人のからだは、栄光のからだに）変えられます。ラッパが鳴ると、死者（主を信じて亡くなった人）は朽ちないものによみがえり、私たち（主を信じ、主の再臨の時に地上に生きている人々）は（罪のない栄光のからだに）変えられるのです」Ⅰコリント15：52。

3. やがての栄光は、神の新創造、新天新地の恵みです。

主の再臨後の出来事「また私（ヨハネ）は、新しい天と地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁

のように整えられて、神のみもとから、天から降ってくるのを見た。私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。

「見よ、神の幕屋（神の臨在）が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」すると、見座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする」黙示録21：1－5。

まとめ：今の時、多くの苦難がありますが、やがて神の時に主が再臨されるとき、私たちに啓示、与えられる栄光（救いの完成による栄光のからだ、苦しき、疫病、戦争、地震、罪、悪が一切ない神の義と愛に溢れる新天新地の御国）に比べれば、今の苦しきは取るに足りないと熟考し希望を持ち歩みます！